

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-51C	17-019	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Alcohol consumption and gastric cancer risk-A pooled analysis within the StoP project consortium. 飲酒量と胃がんリスク-StoP プロジェクトコンソーシアム内のプール解析		
執筆者		
Rota M, Pelucchi C, Bertuccio P, Matsuo K, Zhang ZF, Ito H, Hu J, Johnson KC, Palli D, et al.		
掲載誌		
Int J Cancer. 2017 Nov 15;141(10):1950-1962. doi: 10.1002/ijc.30891. Epub 2017 Aug 8.		
キーワード	PMID	
飲酒、症例対照研究、胃がん、プール解析、危険因子	28718913	
要 旨		
目的： 近年、飲酒の蔓延と飲酒量の増加により世界中のがん症例の 5.5%が飲酒に起因している。深酒と胃がんとの関連が報告されているが、結果はまだ数量化や議論の最中である。胃がんのリスク因子に関する疫学研究の最近確立されたコンソーシアムである“Stomach cancer Pooling project”は、対象者の情報を用いて飲酒と胃がんリスクとの関連をより明確に定義し定量化する独特なプロジェクトである。		
方法： 対象は欧州、アジア、北アメリカにおける 23 研究からの胃がん症例中、飲酒に関する 20 研究の全 9,669 例と対照群 25,336 例である。解析には 2 ステージのモデリングアプローチを採用した。まず多変量無条件ロジスティック回帰モデルを用いて、各研究のオッズ比 (ORs) と一致する 95%信頼区間 (CIs) を算出することにより飲酒と胃がんの関連を調査した。次にランダム効果モデルを用いて、集計 (プール) された効果推定値を計算した。		
結果： 禁酒群と比較して、1 日当たり 4 杯までの飲酒者が胃がんリスクを増加させることはなかったが、深酒 (4~6 杯/日) で ORs 1.26 (95%CI 1.08-1.48)、ひどい深酒 (6 杯/日より多い) で ORs 1.48(95%CI 1.29-1.70) であった。1 日 4 杯より多い飲酒者のリスクは喫煙者 (ORs 1.14,95%CI 1.11-2.34) と比較し、非喫煙者 (ORs 1.87,95%CI 1.35-2.58) においてより高かった。部位別では非噴門部の胃がん (ORs 1.28,95%CI 1.13-1.45) よりいくらか強い関連が噴門部と深酒で浮かび上がった (ORs 1.61,95%CI 1.11-2.34)。組織型において、深酒群はびまん型 (ORs 1.29,95%CI 1.05-1.58) より腸型 (ORs 1.54,95%CI 1.20-1.97) で高いリスクを示した。ヘリコバクターピロリ菌の感染者 (ORs 1.52,95%CI 1.16-2.00) と非感染者 (ORs 1.69,95%CI 0.95-3.01) の深酒者群における関連は類似していた。		
結論： この疫学研究の共同プール解析は、これまでの胃がんリスクへのあまり大きくないが有害な深酒の影響を支持するとともに、より正確かつ定量的なエビデンスを示している。		